

意味な位であることはどんな深い掘鑿も全く張合のないものにする。越後で行はれて居る様に家庭内の火及び光の代りに瓦斯を利用する價値はあるかも知れない。然しこれまで水の爲めに掘つた井戸から瓦斯の噴出したものも再び土で填塞されて出がとまつた。石油（而して又褐炭及び海膽類）が出る岩石は越後の含油岩類と同時代のものであるらしい、而して多分時代に於ては北海道の利別石層と同じである。緩傾斜を有する露出はこゝかしこ道路に近い低丘に在る同じ地層は能登の國に擴がつてゐる様で、それから出た褐炭の數片を見せられた、然し能登には石油の噴さが立つたことはあるが實際は石油がない様である。然し能登の國の山地は示され

た或る標本と與へられた記述から判断すると、主に鳴居古丹石層で成る様である。他のものの中にかなり純粹に見える石墨の一塊、或る磁鐵鑛砂、含金せりといふ或る砂及び礫、或る黃鐵鑛、方鉛鑛、滿俺（軟滿俺鑛、硬滿俺鑛）、石灰岩及び大理石竝に日本には稀である甚だ小さい螢石があつた。

中部及び西部越中の沖積層中には南方にある鳴居古丹石層から多分來た玉髓及び紅玉髓の化石塊が發見される（何故ならば此等の岩石は何處でも古期火山岩よりも石英に大に富んでゐる様に見えるからである）、而して金澤には裝飾品に其を彫刻する政府の一小工場がある。（未完）

伊太利とくろぐ

(十五)

瀧川規一

〔ボムペイの壁畫〕 ボムペイの壁畫の第一期

及び第二期は既に述べた。残れるは第三期及び

第四期である。第三期は紀元前三〇年頃から紀元後五〇年に到るものであつて、殆ど何れの畫も美しき色彩の裝飾を以て飾れる平板なる壁に畫かれて居る。その周圍の裝飾と畫そのものゝ色彩とが互によく調和し艷麗にして賤しからず趣味の優雅を充分に表はして居る。壁畫はこの期に於て發達の極に達したと云つてもよい。この期の壁畫の畫風は紀元前三一年アクチアム(Acchium)の戦後、埃及のアレキサンドリア港から伊太利に輸入されたと想像されてゐる。この點よりこの期の畫をエヂプト式と稱せられてゐる。この期の傑作として例を擧ぐるならばセシリアス・ジユカンダスの家(Casa di Cecilio Giocondo)にあるものがそれである。可成よく保存されてゐるが色彩はひどく褪色してゐる。左側の壁にはオレステス(Orestes)がピラデス(Pyraides)とイフィゼニア(Iphigenia)と共に居る繪がある。オレステスの肖像には必ずこの二人が隨伴してゐる。何故であるか？オレステスは希臘の勇士アガメムノン(Agamemnon)の息子であるが父

伊太利とことごとく

は妻とその秘密の夫との爲めに殺ろされた。

オレステスは恰もハムレットの如き境遇であるがハムレットの如き神經質な男ではなかつた。父の仇を報ぜんと八ヶ年の長き月日を流浪の生活に送つた。遂に友人のピラデスの援助を得て父を殺ろした母及びその姦夫たる後添ひの夫を殺害した。今日でも斯くした復讐行爲が屢裁判沙汰となることがある。一方は少くとも母親である。事單純ではない。希臘の神話の世界でも斯る復讐行爲が直に賞揚の的とはならなかつた。彼は犯した母殺ろしの罪に對して何かの方法で罪亡ろぼしをなさなければならなかつた。彼に對して報復なさんとしたのはエリニス(Erinnyes)と總稱せられた報復の女神の群であつた。彼はこの女神等の追及より逃れ避けなければならなかつた。またデルファイ(Delphi)の神アポロの神托によつてタウリス(Tauris)からアルテミス即ちダイアナの女神の像をとり來つてアゼンスに持ち歸らなければならなかつた。彼は妹のイフィゼニアの援助を得てアルテミスの女神の像

を手に入れて持ち歸ることが出来た。アレオパガス (Areopagus) に開かれた最高法廷で彼の罪の審判を受けた際アテナの女神が彼に味方して投票した爲めに僅か一票の差によつて彼は無罪放免となる事が出来た。三人常に連立つて居るのは以上の理由でタウリスからダイアナの像をとつて歸つた時の様子を畫いてゐるのである。

この期に屬する見事な畫はルクレシアス・フロント (Lucretius Fronto) の家にある壁畫である。この家の所有者は富裕な相當社會的地位のある人であつて庭の右手の壁に *Vir Fortis et Honestus* と書いてある。この語から察して家主は勇敢にして正直な人であつたと云はれてゐる。第一室にはネオプロモス (Neopholomos) がデルファイのアポロの殿堂前の祭壇で死の犠牲となる繪がある。このネオプロモスは勇士アキリスの息子であつてトロイの戦争にはトロイの町を強襲せんが爲めに木馬の腹裏に身を匿くした三十勇士の一人であつた。第二室にはゼイナスの神がお化粧をしてゐる繪があり、クリ

ート島の迷路に棲む半人半牛の怪物ミノトロースを退治し得たアゼンヌの王セシアスがアリアヅネから巻繩を得てその暗示をもつて迷路から逃れ出ることが出来た場面の繪がある。マースの神とゼイナスの神とが結婚する結婚式の繪、二頭の牛に牽かれ戰車に乗つてバツカスとアリアドネとがお祭騒ぎをして練り出してゐる光景がある。バツカスは右手に酒杯をふりあげて居り、傍には驢馬に跨がれるセイタとバツカントとが居る。お祭氣分は今日も神話時代も大差なきかと思ふ。人間の斯うした半面は神人同一らし。

戰車の前には種々の賜物をぶら下げてゐるキユピッドが趾先で身輕に歩いてゐる。寢室にはナーシスサスの繪がある。彼は美男たることを誇りエコの愛を斥け爲めに愛の神の怒に觸れて自己戀愛の結果失望して死んだがその墓に一枝の草花が咲き出てた。その草花は爲めにこの美男ナーシッサス (Narcissus) の名によつて今日も呼ばれてゐる。この自惚の美男ナーシッサス

が泉で水を溶びて居る繪が寢室にある。またペロ (Pero) が老父マイコン (Micon) に乳を哺んでゐる繪がある。食堂には狩獵の繪があり小庭の裏の四室中の一室には壁畫がある。ピラマスとシスベの繪がある。この兩人は沙翁劇のロミオとジュリエットに似た愛の運命をもつた戀仲である。ピラマスは美シスベと戀仲になつたが、兩人の父の家は相隣してゐて、の隔をなす壁の割目を通して僅に言葉を交はず丈けであつた。兩人密會の場所に女は約束の時間よりも餘りに早く來た。然るに其處には獅子が居つたのでシスベは逃げ去つた。逃げる際にヴェールを落した。獅子は血のついた口でそのヴェールを噛みひき裂いた。後れ馳せに來たピラマスは血に汚れたヴェールを發見し、獅子の爲めにシスベは喰ひ殺ろされと合點し自殺した。然るにシスベは死せる愛人の姿を見て自ら短刀を胸に突刺してまた自殺をなした。

今この兩人が密會せる仲のよい處を描いてある。またバツカスとお伴のシレナスの繪もある。

る。
次にスピリアス・メンル (Spurius Mesor) の家の壁畫も亦この期のものであるが、ナポリの博物館に藏されてゐる。

第四期は紀元後五〇年頃より七九年に到る間であつて、この期の繪は益現代に近づいたことを觀者に感ぜしめる。人物躍動して光彩を放ち想像を豊にし色彩亦潤爛である。畫の周圍の裝飾には唐草模様をあしらひ、飾付大燭臺を備へ花輪があり天空を飛翔せるキューピッドが居り鳥がありセイタが居り、バツカンが居つて壁畫と相俟つて裝飾的効果を充分に發揮してゐる。

今この期の顯著なる一例とせられるヴェツテの家 (Casa dei Vetti) は一流の藝術家の手になつた彫刻及び繪畫を多數に持て居るのでポムペイ行に見逃す可からざるものゝ一とせられて居る。一八九四年より九五年にかけて發掘されたものであつて、繪は殆ど完全に保存されてゐる。小戸棚の内には肉慾と多産とをあらはす神プ

リアパス (Priapus) の繪があり廣間の壁にはキユピッドと小兒の繪があり、戸口と戸口の間には赤地に黄金色の裝飾をもつ燭臺が描かれて居る。參觀者の眼は庭園の整美にひきつけられその大理石の水鉢と小彫像(模造)とに愛着を感じ、金櫃の奇しさに驚く。廻廊の左手の壁にはセシアスに見棄てられたアリアドネの繪があり右手にはヒエロとリアンダ (Hero: Leander) の繪がある。この兩人も戀仲である。ヒエロはセストスと云ふ處のアフロダイトの神に奉仕してゐる尼である。この尼にはアビドスと云ふ處から來た美男リアンダと云ふ愛人があつた。毎夜毎夜リアンダはヘレスポント即ち今日のダーダネレスの海峡を渡つてヒエロに會ひに來る。ヒエロは愛人が海を渡つて來る時途を失はないやうにとて海岸に燈火を常に置いた。或る夜のこと嵐が吹き起つてその燈火が消えた。その爲めにリアンダは溺れて死んだ。ヒエロは悲みの餘り遂に自殺をした。

大室にはシバリサス (Cyprisus) の繪がある

この男は自分の寵愛せる牡鹿が殺されたので懊惱に目を暮れてゐたが、神々がその煩悶を憐んで彼をサイプレスの木に變形せしめた。この繪の向側にはエロス (Eros) とパンとが相撲をとつて居り、見物人にはパッカスとアリアドネその他一行が居る。

シレナスは行司になつて棕櫚うちわをもつてゐる。壁の上部にはゼウス (Zeus) が未だ鬚を生えてゐない若い顔を見せて居り白鳥をつれたりダーダ (Dada) が居り更にダネ (Danae) が居る。このダネは神話上では實に奇しき生涯を送つた女性である。

その父は孫の爲めに殺ろされるとの神托を信じて彼女を地下の獄に幽閉した。ジュピタ (Jupiter) は黄金色の雨となつて彼女に云ひ寄つた。彼女にはやがて一子ペルセアス (Perseus) が生れた。父は神托を猶も信じて孫のペルセアスをその母親のダネと共に箱に詰め込んで海に投じた。この箱は海浪を漂つてセルフォオスの島に漂着した。島の王はダネに云ひ寄つたが肘鐵を

喰ひ怒つて彼女を奴隸にした。ペルセアスを亡きものにせんと企てた島の王はゴルゴン(Gorgon)の怪物の首級を得よと命じた。王の意志はこの怪物の首を一見すれば必ずペルセアスは恐怖の餘り死ぬであらうと思つた。ペルセアスは命じられるままに多くの危険を冒して遂にゴルゴンの首を得て持ち歸つた。豈圖らんやペルセアスが恐怖の餘死ぬのではなくて、島の王自らが一見忽ちに石化して死んだのである。箱詰犯人は今日も新聞種であるが、漂着箱發見後の奇しき運命物語は神話特有のものらしい。

神話上の人物に記憶と想像とを巡らしてゐるとその附近に鬪鶏の繪の面白いのがあるのに氣がつく。

廻廊に接する室には美しき畫がある。蛇の咽喉を締めつけて居るハーキュールス(Hercules)が居る。音に聞えた怪力の勇士である。母親はこの子を憎みその搖籃内に二足の蛇を入れて彼を殺さんとしたが、彼は却つてこの蛇を殺ろした。彼はテーベスにて養育されたが、其處でも

伊太利ところぐ

音樂の師匠を殺した。養父はこれを罰してハーキュールスを山に送つて羊飼ひとなした。これより彼の有名な怪力の仕事が始まる。山に入つて第一に獅子を殺した。またテーベ人と戦つて戦功によつて王の娘を貰つて結婚した。然るに女神ヘラの爲めに狂氣にされ自分の小供を虐殺した。罪亡ぼしの爲めにユーリセアス王に仕へて十二の難業をすることになつた。第一の難業はネミアの谷に棲む獅子を殺すこと、第二はレルナに棲む九頭の怪龍ヒドラを殺すこと、第三はエリマシアに棲む猪を殺すこと、第四はケリニシアに棲む牝鹿を生捕にすること、第五はスチムファロスから食人鳥を追拂ふこと、第六はオーチアス王の厩の不潔を一掃すること、第七はクリート島の怪牛ミノトールを服従せしめること、第八はデオメデスからその食人馬を奪取ること、第九はアマゾンの女傑國の女王の腰帶を得ること、第十は巨人ゲリオオネスの家畜をユーリセアス王の許に拉し來ること、第十一はヘスペリデスの林檎を得ること、第十二はヘーズ

から地獄の番犬を拉し來ることがその難業であつた。この繪は蛇を殺して居る處である。その向ひ側にはバツカスの神の女性奉仕者によつて殺されんとしてゐるペンセアス(Pentheus)の繪がある。この人はバツカスのお祭を禁じたので、これ等の女性によつて殺らされたのである。右手の畫はダーク(Dark)が罰せられてゐる繪である。テーベスの王の娘にアンチオーベと云ふのがあつた。美貌の持主であることが災なして苦難の生涯を送つた。最初ジュピタが彼女を追廻した爲めに彼女はシキオンに逃れその國王と婚したが、父の兄弟がその國王を襲ひシキオンの町を破壊し彼女を捕虜として本國に連れ歸つた。いつの程かジュピタの種を宿し双子を産んだ。然るにその子の一人及びその妻ダークの爲めに恥辱をうけ遂に走り去つたが、偶然に二子を見出し二子は母の爲めにテーベを破壊しダークを野牛の角に縛りつけ野牛はダークをひきづり廻して死に至らしめた。

食堂に入るとデダラス(Daedalus)と云ふ藝

術家がクリート島の王ミノスの妻パシフェに木製の牝馬を見せて居る繪がある。このデダラスは今日の飛行家の祖先であると云つてもよく、貴重なる多くの藝術品を作つた。クリート島の王様の爲めに迷路を作つてミノトラーラの棲家とした。然るにセシアスに加擔してこの怪物を殺すことを援助した。その罰として彼はその息子と共に迷路に幽閉された。彼は自分及び息子の爲めに羽翼を作つて迷路から逃れ出た。その息子は空をかけつて餘りに高く太陽に接近したので、羽翼を固めてあつた蠟が融けて海中に墜落し溺死した。父のデダラスはナポリ附近のキユーメに到り遂にシシリ國王の許に走つた。

後ろの壁にはイキシオン(Ixion)がヘフェスタス(Hephaestus)の爲めに車輪に縛られんとする繪がある。

イキシオンは種々の失策をしたので有名である。

その最顯著な失策はジュノを侮辱したことである。その爲めに彼は翼のある火の車輪に縛り

付けられ空中に轉廻し續けなければならなかつた。今ここには彼が車輪に縛られんとしてゐる處を描きてゐる。蹲踞せる女性はジュノらしい。この繪の右手にはハミリス・アイリス・ヘラ・ネフエレが描かれ右手の壁にはアリアドネが眠れる處をバツカスに發見されてゐる畫がある。

(續く)

摘 錄

○小藤文次郎博士述 東亞に於けるロツキー山脈 (Gerlands Beitrage zur Geophysik. Bd 27, p.241—243, 1930 所載)

本篇は予の曩の論文(地球第十三卷三八九—三九一頁参照)の續稿である。ララミード變革で生じた内陸にあるコトディレラのロツキーと太平洋系の海に寄つたアンデス即ちカステロドの二重山脈とは A・C・スペンサー、L・W・L・セーヤー及び F・B・テラーに依り北米合衆國の太平洋岸地方からカナダ及びアラスカを過ぎベリリング海を横ぎつて東シベリアの海岸まで追究された。予は頃日太平洋の北西部でアジアのロツキー山脈を追究した、この山脈は内陸高原とアメリカ側に類比すべき低い沿海地帯との間の分水界である。然かもアメリカとアジアとのもの、間には重要な相違がある、是はロ

ツキー山脈が殆んど眞直ぐに南走し且つアラスカに於て鈍く曲がつてゐるのに我々の側のロツキー山脈は規則正しい短かい弧の連合から成つてゐることである。

地貌に著しく違ひのあるのは恐らく兩地域に於ける太平洋底の非對稱に原因するものであらう、アメリカ海岸は淺く、之に對する北西部は所謂前面深淵で特徴づけられてゐる、なほ其の後背地は北アメリカと古い巨大な歐亞大陸との不同の大陸であり、此の外自然力による他の多くの要因も存在する我々の側に特有な前面深淵は四つある。其の内外側の二つはタスカローラと小笠原(即ちマリアナ)であり内側の二つは琉球とミンダナオ(即ちフィリッピン)であつて、最深のものであつて平均の深さは九千米に達しシマ帯中に在る。此等の前面深淵はアジア縁邊のシアル殻に向つて衝下運動を押しした。之に反する反應的移動が大洋の海溝に向つて地殼の表層に起り前面の地向斜の方に衝き進み、若い海成層の衝上及び斷落を生じた。然るに後方の山地は内方に傾き、其の結果として火山裂口となる溝壑を開口させた。此の赫々たる一例はポルトガル人によつて美はしの島と呼ばれた臺灣島の地質構造である。外方に向ふ地殼の押推は弧狀山稜列の生成を齎した、就中前面深淵に相應する四個の山脈がある。即ち(I)普通にロツキー山脈と名付けられた内陸分水界、(II)朝鮮、樺太等の如き海岸にある弧、(III)日本の様な花彩島及び(IV)大洋にある小笠原山稜である。凡て此等は東方にあるアジアの海